

8. 地方からの便り

「第20回茨城県幼年少年婦人防火大会」を開催

茨城県 茨城県幼少年婦人防火委員会

7月27日(水)、茨城県水戸市の水戸市民会館において、第20回となる「茨城県幼年少年婦人防火大会」が開催されました。県内の幼年・少年・婦人の各防火クラブ員などおよそ1,000名が参加し、相互の交流と、地域における火災予防思想の一層の普及を図ることを確認し合いました。

大会では、火災予防活動に功績のあった50の団体及び個人に対し表彰状が授与され、そのうちの地元水戸市の「大工町地区婦人防火クラブ」の袴塚禮子会長が受賞者を代表して謝辞を述べられました。

また、アトラクションの時間には、同じく地元水戸市の「のぎく保育園」の園児によるマーチングバンドの演奏とそれに引き続いての「防火への誓いのことば」などが披露され会場を盛り上げていました。



[▲ このページの上に戻る](#)

幼少年防火大会

岐阜県 郡上市消防本部

幼年消防クラブが発足し25周年を向えた今年は、幼少年時期からの防火の理解を求めることにより将来の健全な青少年の育成を目指すことを目的とし、平成17年7月31日(日)に女性防火クラブ・警察・授産所施設等の協力を得て、「防火防犯まつり」を開催しました。

郡上市女性防火クラブによる住宅防火に伴うパンフレットの配布・炊き出し訓練や、岐阜県防災航空隊の訓練披露、市内の保育園による演技披露のほか、消防・警察車両の展示や地震・煙・AED体験、住宅防火対策ゲームや消防車との綱引き等をし、大人から子供まで約2,000人の来場者があり盛大に開催することができました。





▲ このページの上に戻る

第19回幼年消防クラブのつどい

京都府 長岡京市幼少年婦人防火委員会

京都府長岡京記念文化会館文化ホールにおいて、7月2日(土)午前10時30分から第19回幼年消防クラブのつどいを長岡京市幼少年婦人防火委員会と(財)日本防火協会の共催で開催しました。

これは、防火思想啓発運動の一環として、毎年引き続き防火のつどいを開催しているもので、楽しみながら防火思想の普及・推進に努めるとともに、幼年消防クラブのPRや啓発並びにクラブ員相互の親睦を図り、もって地域ぐるみの防火意識の高揚を図ることを目的とするもので、今回で19回目になりました。

第1部は式典で、関係各位のあいさつ及び祝辞を頂いた後、クラブ員全員で防火宣言をしました。

そして、今年のメイン、参加者全員で歌う「みんなで歌おう！踊ろう！ひとつの歌で！」をスローガンに2曲を選定して大合唱をしました。

選定された曲は、「ともだちさんか」と「世界中の子どもたちが」です。

代表の幼年消防クラブ員は壇上上がり、毎年、笑顔たっぷりの顔で、会場のクラブ員と共に、踊りながら大きな声で合唱してくれました。

また、幼年消防クラブ員のかわいい法被姿に、婦人防火クラブ員だけでなく、来賓や一般の入場者もつられて一緒に記念歌をくちずさんでいる姿は、実に微笑ましい光景でした。

第2部のアトラクションは、音楽劇団てんてこによる「てづくり楽器ワールド」を公演としました。

身の回りにある素材で作った楽器を使って、てんてこ風にアレンジされた不思議な音のオリジナル曲を会場全員で楽しんで鑑賞して頂けたと思います。



少年消防クラブ夏季研修を実施！

福岡県 八女消防本部

八女消防本部では、管内の少年消防クラブがそれぞれ夏季研修を行いました。

有明海に注ぐ矢部川の清流でのカヌー教室、キャンプ場に出かけての登山、カレー作りなどクラブ員同士交流を図りました。

大自然に触れながらふるさとの美しさ偉大さそしてその自然を守ることの大切さを学びました。

また、防火教室や救急教室も行い、命の大切さ、心肺停止状態になった場合の心肺蘇生法などを学び、充実した研修となりました。



少年消防クラブ員半田消防署一日入署

愛知県 知多中部広域事務組合消防本部

知多中部広域事務組合消防本部は、愛知県知多半島のほぼ中央に位置する半田市、阿久比町、武豊町、東浦町の1市3町を管轄する消防本部です。

当消防本部では、平成17年8月4日(木)〔半田市のクラブ員対象〕、5日(金)〔阿久比町、武豊町、東浦町のクラブ員対象〕の両日に半田消防署一日入署を実施しました。

この半田消防署一日入署は、少年消防クラブ員に対して、消防についての関心を深めさせ、実践活動を通して少年期から火災予防の知識と技術を培うとともに、防火意識の高揚及びクラブ員相互の親睦を図ることを目的とし、昭和54年度から実施、今年度で27回目の一日入署となりました。



1 実施内容

(1) 午前の部

ア 入署式

- イ 防火映画上映（こぎつねの消防隊）
- ウ 規律訓練、救急法
- エ 通信指令室の説明及び見学
- オ 望楼見学
- カ 車両説明



- (2) 午後の部
- ア 救助訓練見学
- イ 消防〇×クイズ
- ウ はしご車搭乗
- エ 放水体験
- オ 濃煙体験
- カ 起震車体験
- キ 退署式

2 参加者

(1) 平成17年8月4日(木)

半田市の少年消防クラブ員78名

少年消防クラブ指導者2名 計80名

(2) 平成17年8月5日(金)

阿久比町、武豊町、東浦町の少年消防クラブ員83名

少年消防クラブ指導者3名 計86名

2日間合計 166名

▲ このページの上に戻る

女性防災講座開催 AED(自動体外式除細動器)の使用法も習得

愛知県 碧南市女性防火クラブ連絡協議会

碧南市女性防火クラブでは、7月1日から延べ4日間に亘り碧南消防署で女性防災講座を開催しました。延べ出席者数は469人にも達し、8月11日に全日程を終了しました。

第1日目は、地震・台風体験、消防自動車や消防庁舎内の見学、消火訓練、ハイゼックスによる非常炊出しとカレーの試食という盛りだくさんのメニューです。あいにくの雨模様で救助袋の体験は中止。ちょっとスリルを味わいたかったのに、憎らしい雨でした。

第2日目は家庭における救急法の講習、第3日目はAED(自動体外式除細動器)の使用法を含めた普通救命講習を実施しました。愛知万博会場でAEDにより人命が救われたというニュースがタイムリーであったためか、第3日目の受講希望者が殺到し、急きょ日程を7日間に増やしていただき、合計139人のクラブ員が普通救命講習修了証の交付を受けました。

第4日目は、市内の工場の施設見学です。さすがステンレス鋼のメーカーです。工場内は熱気にあふれ、折からの猛暑と重



なりお化粧も汗とともに流れ落ちるほどで、男性の職場がどれほど大変かよく分かりました。

4日間の講座を通じ、「自分の命は自分で守る」「愛する人の命を救う」「家庭から火を出さない」ことを皆再認識し、非常に有意義なものとなりました。



▲ このページの上に戻る

「BFCの集い」の開催

富山県 富山市消防局

7月25日(月)晴天の中、元気いっぱいの小学生が「BFCの集い」に富山消防署にやってきました。この集いは毎年、楽しく火災予防について学んでもらおうと行っているものです。会場にやってきた子供たちは展示されている各消防車両を見て、興味津々な様子でした。

実際に現場で使用しているヘルメット・防火衣を着用しての放水体験では、水の圧力にも負けず的に描かれている炎を消そうと真剣な様子でした。うまく当てたときには「やった～」と無邪気に笑う姿が見られました。

その他にも、梯子車試乗・ロープ結索・通信指令室見学などの消防の仕事にも触れ、また、起震車試乗・煙中体験など震災時の体験も行い、子供たちにとってとても良い体験になったと思います。

子供たちは「消防の仕事は大変そう」、「日ごろから災害に備えたい」など、さまざまな思いをもっていました。

この「BFCの集い」で学んだ知識や体験を周りの友達や家族にも伝え、防災意識を高め、今後の防災活動に役立ててほしいと思います。



▲ このページの上に戻る

市民救命サポーター・ステーション認定証交付式の概要

大阪府 豊中市消防本部

豊中市消防本部は、7月22日(金)に、市施設をはじめ、給油取扱所、ホテル、スポーツクラブ、福祉施設等96施設に市民救命サポーター・ステーション認定証及び認定表示マークを交付しました。

この制度は、不特定多数の市民が利用する施設で、従業員の



半数以上が普通救命講習を受講していること等を要件に、市民救命サポーター・ステーションとして認定し、自施設内及び施設周辺地域で、救護を必要とする事故が発生した場合に、普通救命講習修了者の市民サポーターが、応急手当や119番通報、救急隊員への情報提供等、積極的に救護活動を行うことを目的に設置されたもので、認定書を交付されたホテル関係者は、「お客様の安全・安心を確保するという姿勢を表すものが同サポーター・ステーション。ホテル内はもちろんですが、近隣で発生する事故も念頭に置き迅速に対応したい。」と話していました。



豊中市消防本部としましては、今後も様々な施設の賛同を得て、この活動を発展させ、市域全体の防災力を高めたいと考えています。

(参考) 市民救命サポーター・ステーションの認定について

豊中市では、平成15年6月から消防本部が市内の給油取扱所を対象に実施していた市民救命サポーター・ステーション制度を、豊中市が目指す「市民の防災力を高めよう」「安全・安心のまちづくり」を更に推進するため、サポーター・ステーション対象施設の範囲を広げるとともに、市の全施設（小・中学校を除く）を、率先して市民救命サポーター・ステーションとして認定することとした。

この制度は、自施設内、及び施設周辺、施設周辺地域において救護を必要とする事故が発生した場合に、または市内で発見あるいは遭遇した時は、各施設の救急講習修了者である市民救命サポーターが、積極的に救護活動協力を行うことを目的に設置された。

大阪府下では初めて実施され、豊中市消防本部では豊能地区の消防本部に活動を共に進めて欲しいと要請したところ、いずれの市町も実施の方向で検討するとの回答があったとのことである。

豊中市は、平成16、17年度の2ヶ年で全職員に普通救命講習を受講するよう通知し、この市民救命サポーター・ステーションの認定に必要な、施設ごとに職員の半数以上が普通救命講習を受けていること、という条件を満たすこととしている。

この制度は、消防本部が平成15年6月から市内の給油取扱所のみという範囲で開始したが、高齢化社会の進展、社会的モラルの低下による事件の増加、交通事故、核家族化に伴う不安の増大による事故、また自然災害、尼崎市で発生したJRの事故など、救命に関する応急手当を含め、救護を必要とする事故には、側にいる市民の早い応急手当が必要とされることから、市民が利用する施設を主に、地域全般にも拡大する必要があるということから、この度、消防本部が制度を見直し、対象範囲を拡大することとした。

消防本部では、市施設以外に市内事業所にも参加呼びかけを行い、7月22日(金)の認定交付式には、ホテル、スポーツクラブ、福祉施設など9事業所、市施設54施設、給油取扱所33施設（平成15年当初は委嘱としていた）、合計96施設の認定を行った。

消防本部では、本制度の対象となる市内の総てのスポーツクラブ、福祉施設、駅舎など従業員が10人以上の事業所で不特定多数の人が利用する施設に、もしもの時にすぐに対応出来る、特に救命処置が適切にでき、市民が安心して利用できるような施設としての体制作りを行うよう、今後も呼びかけを続けていくこととし、企業姿勢に訴えていきたいとしている。

また、自主防災の観点からも、自助、共助体制作りが防災の基本であるとして、各施設に積極的に参加協力して欲しいとしている。

消防本部では、「市民救命サポーター・ほーむ」という、地域内における近隣での協力体制作りも同時に進めているが、こちらは女性防火クラブの会員を対象として参加の呼びかけを行っている。現在一般を含め180名ではあるが、救急講習の都度、参加人員は増加しているとのことである。

豊中消防本部では、更にこの活動を活発化し、市域全体の防災力を高め、安全・安心のまちづくりに努めたいと考えている。



少年消防クラブ一日署員

愛知県 豊田市消防本部

平成17年8月5日（金）に豊田市消防本部庁舎において、一日消防署員が行われ、市内の少年消防クラブ員200名が参加しました。この催しは、少年消防クラブに消防の仕事を体験させ、消防への正しい理解を深め、防火意識を高めてもらおうと、昭和60年から、毎年この時期に開かれています。

はじめに予防課長から代表児童に辞令が交付され、「消防の仕事の基本は、人を助けることです。訓練をとおして消防の仕事内容を知ってもらい、人を助けるためにはどういう知識と技術が必要なのか学んでほしい。」とあいさつをしました。今年度は、猛暑の中での実施となり時間が経つごとに屋内訓練場も徐々に熱気に包まれ、最初の規律訓練からクラブ員達は、大粒の汗を流しての訓練を体験しました。規律訓練では、消防職員の「敬礼」の掛け声に少し緊張しながら最後には、しっかりと敬礼ができるようになりました。その後、班ごとに分かれて、庁舎内にある防災学習センターで煙の充満する迷路の中から脱出する煙脱出メイズや震度7の揺れが体験できる地震体験ハウス、人工呼吸や心臓マッサージの応急手当の学習、消防本部に隣接する中消防署で、実際に消防職員が着用する防火衣を着装しての放水体験、訓練塔を使用してのロープ体験をしました。

ロープ体験では、地上から約10メートルの高さに約20メートルの長さで張られたロープをチロリアン渡りで渡りました。下には、防護ネットが張られているもののクラブ員たちにとってはかなりの恐怖心がある様子でしたが、それでも勇気を振り絞って訓練に挑戦していました。中には途中で力尽きてしまうクラブ員もいましたが、見学していたクラブ員の声援を受け、最後まで渡りきることができました。

参加したクラブ員は、ロープ体験を終え「最初は簡単にできると思ったけど、渡りきるまでにけっこう距離があり大変でした。消防署員は毎日、ロープ訓練をしている事を知り、人を助けるためには、こうした訓練が大切ということがよくわかりました。暑い中での訓練はつらかったけれど消防署員の仕事の大変さがわかり、火災予防に対する気持ちが一層強まりました。」と流れる汗をふきながら話していました。また、放水体験を終えたクラブ員は、「防火衣を着たらとても暑く、またホースから水が出る時水圧でものすごい反動があり、びっくりしました。消防署員の人が大変な訓練をして僕らの町を守ってくれることがわかりました。」と話していました。

一日署員は、午後3時30分まで行われ、最後に修了証と参加



賞が配布されました。そして、一日署員を終えたクラブ員は、嬉しそうに迎えにきた家族に今日一日の体験を話していました。



[▲ このページの上に戻る](#)

目次

- [1. さいたま市総合防災訓練（第26回八都県市合同防災訓練）](#)
- [2. 平成17年度北海道・東北ブロック婦人防火クラブ連絡協議会地域幹部研修会](#)
- [3. 平成17年度婦人防火クラブによる新住宅防火対策の推進に関する調査研究会](#)
- [4. 平成17年度秋季全国火災予防運動に対する協力について](#)
- [5. 愛知万博にて防火・防災をPR！（愛知県婦人消防クラブ連絡協議会）](#)
- [6. 第8回市町村婦人防火クラブ幹部地域研修会にて行われた体験発表（次第）](#)
- [7. 栄えある内閣総理大臣表彰を受賞して（千葉県婦人防火クラブ連絡協議会 竹内会長）](#)
8. 地方からの便り
9. あなたも危険物取扱者・消防設備士
10. [日本防火協会からのお知らせ](#)